

《薬局サーベイランスコメント》

『2016年第12週（3月21日～27日）のインフルエンザの推定患者数は6週連続して減少。学校の春休み期間に入ってインフルエンザの流行は漸く落ち着いてきている』

2016年3月29日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス か ら
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) の2016年第12週（3月21日～27日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は447,645となり、第7週以降6週連続して減少が続いています。また、3週連続して前週の値よりも20万人以上と大幅な減少となっています（図1）。各都道府県別の第10週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、北海道、富山県、福井県、愛媛県、秋田県の順となっており、青森県、新潟県を除く45都道府県で減少がみられています。3月28日（月）の推定患者数は91,051と前週である第12週の休日明けの火曜日の値（3月22日：138,490）よりも大きく減少していて、学校が春季休暇中である第13週（3月28日～4月3日）も大幅な減少が続くと思われます。

2015年第36週から2016年第12週までの累積の推定患者数は9,612,323(9,612,000)であり、年齢群別では5～9歳（21.5%）、10～14歳（13.4%）、40～49歳（12.8%）、30～39歳（12.2%）、0～4歳（10.8%）、50～59歳（7.6%）、20～29歳（6.7%）、60～69歳（5.6%）、15～19歳（5.3%）、70歳以上（4.0%）の順となっています（図2）。2016年第12週の推定患者数は447,645（448,000）であり、3週連続して全ての年齢群において前週よりも減少しています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（4,023検体解析）は、A/H1pdm 57.4%、B型 32.5%、A/H3（A香港）亜型 10.2%の順となっています（図3）。また、直近の5週間（2016年第8週～第12週；これまでに440検体検出報告）では、B型 50.7%、A/H1pdm 46.1%、A/H3（A香港）亜型 3.2%の順となっていて、B型の方が多くなってきています。

今シーズン（2015/2016シーズン）は1月に入ってから患者数は急増し、2016年の

第5～9週と5週間に渡って本格的な流行となり、第10週（3月の第2週）以降急激な減少となっています。学校の春休み期間に入ってインフルエンザの流行は落ち着いてきましたが、まだ例年の同時期の患者発生状況と比較するとまだ患者発生数の多い状態が続いており、今しばらくはインフルエンザの患者数の推移には注意が必要です。

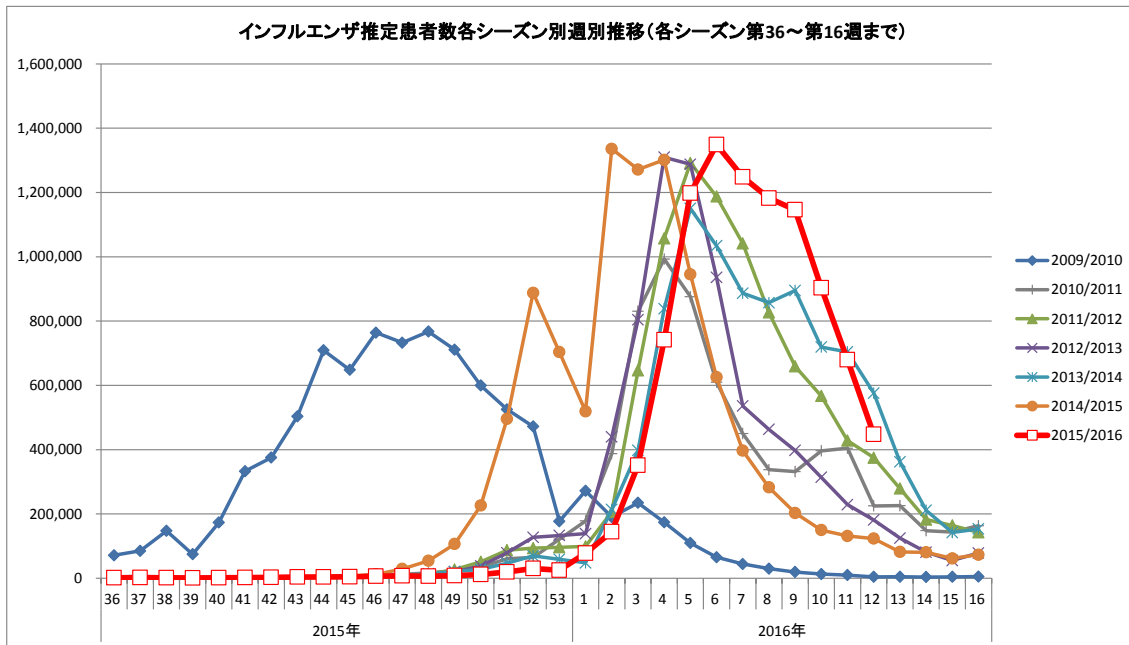


図1. 過去5シーズンと今シーズン（2015/2016シーズン）の第36～第16週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

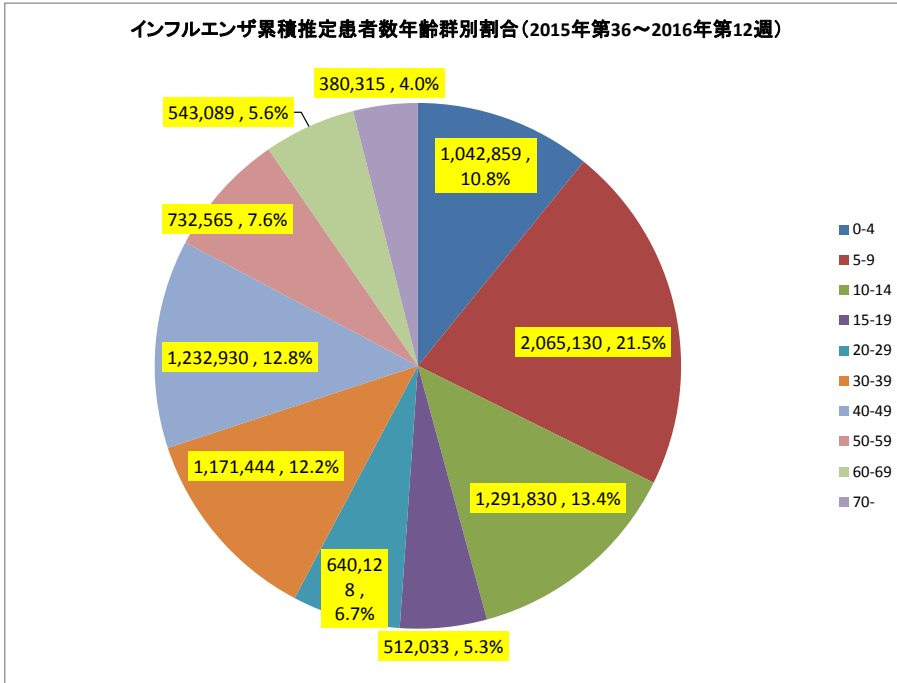


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～2016 年第 12 週、累積推定患者数= 9,612,000)

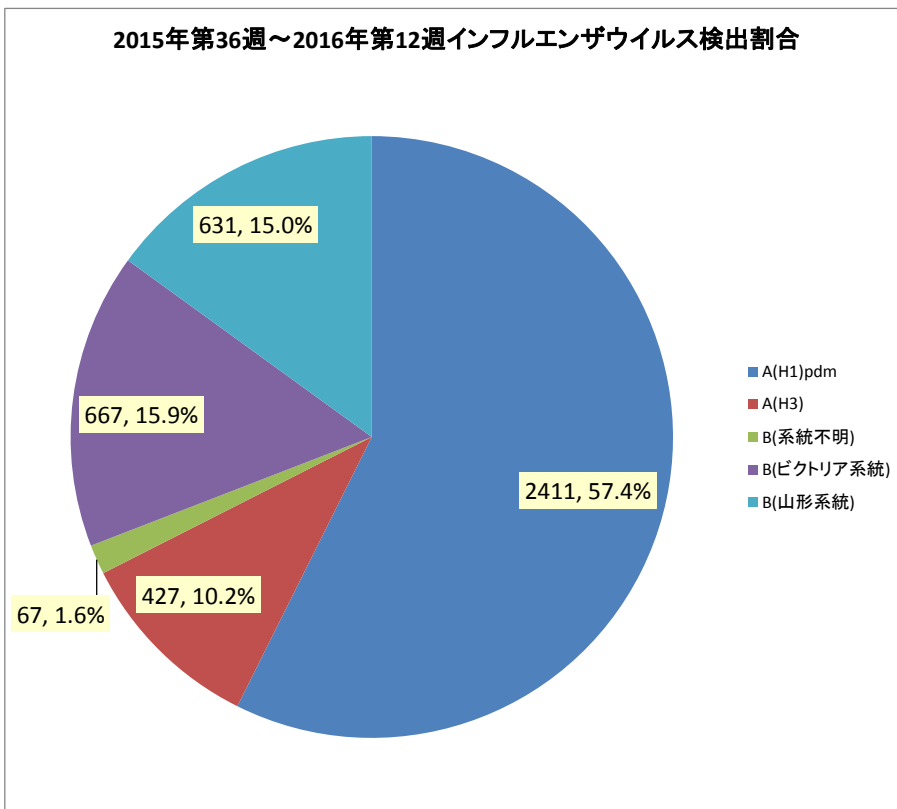


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 12 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=4,023)

